

筑波大学山岳科学センター演習林研究終了報告書

平成 年 月 日

研究代表者氏名	筑波 太郎		
所属・職名	生命環境科学研究科・教授		
住所	つくば市天王台 1-1-1		
連絡先	TEL	029-853-****	FAX 029-853-****
	E-mail	***@***.tsukuba.ac.jp	

研究課題名	八ヶ岳演習林におけるミズナラ二次林の動態
研究成果の内容 (本試験地での研究で得られた成果の概要を簡潔にご記入ください)	<p>八ヶ岳演習林 X 林班に設置した固定試験地における観察の結果、以下のことが明らかになった。</p> <p>観測期間での地上部純一次生産量の平均は XX ton/ha/yr であった。冷夏であった 200X 年の地上部純一次生産量は XY ton/ha/yr であったが、猛暑になった 200Y 年の地上部純一次生産量は YY ton/ha/yr になった。その年の平均気温と地上部純一次生産量の間には正の相関関係がみられた。樹木の肥大成長が大きな年は、落葉落枝 (リター) 量も大きくなっていった。そのため、地上部純一次量はその年の気温に影響されることが明らかになった。調査期間中の 200Z 年に大きな台風による風倒被害が生じたが、その際に林冠ギャップができたことから、幼稚樹の更新が促進された。また、他の低木種の更新も見られた。そのため、台風による風害は天然更新を促す機会であることが確認された。</p> <p>以上の結果は 200A 年に行われた日本〇〇学会で口頭発表を行ない、その内容は Journal of 〇〇誌に、「筑波太郎ほか、八ヶ岳演習林におけるミズナラ二次林の動態、X 号 Y-YY」として掲載された。</p>
成果の発表方法	<input type="checkbox"/> 卒研 <input type="checkbox"/> 修論 <input type="checkbox"/> 博論 <input type="checkbox"/> 学会発表 <input checked="" type="checkbox"/> 学会誌 <input type="checkbox"/> その他 ()
成果の発表時期	平成 30 年 3 月 頃

《注意》

1. 試験研究等が終了した場合は、速やかに申し出るとともに研究終了報告書 (様式 4) を現地演習林へ提出願います。
2. 試験の継続を希望される場合も、設置期間終了後に研究終了報告書 (様式 4) を現地演習林へ提出願います。
3. 調査研究の成果を発表した場合は、成果を現地演習林宛に 1 部提出願います。詳細は演習林利用手引きを参照願います。
4. 試験研究等が終了した場合は、原状回復して下さい。
5. 原状回復に必要な経費及び労力は、利用者の負担となります。